

令和6年度  
第15回ベースマン杯大会  
(レギュラー)

2024.2月25日～3月17日  
予備日3月24日



公益財団法人 日本少年野球連盟 埼玉県東支部



## 第15回ベースマン杯 埼玉県東西支部合同 大会要項



|         |   |
|---------|---|
| 主 催     | (公財)日本少年野球連盟 埼玉県東支部                           |
| 大会 期 日  | 2024年2月25日(日)・3月3日(日)・10日(日)・17日(日)・予備日24日(日) |
| 開 会 式   | 都合により開会式はなし                                   |
| 閉 会 式   | 2024年3月17日(日) 決勝戦終了後 会場                       |
| 開催予定球場  | 各球場、ボーイズグラウンド他                                |
| 試 合 方 式 | トーナメント方式で行う                                   |
| 試 合 規 則 | 2023年度公認野球規則 並びに連盟特別規則による                     |
| 参加 資 格  | 2023年度登録チーム所属選手で、連盟登録、傷害保険に加入した中学生            |
| 登録 役 員  | 代表・監督・コーチ・マネージャー各1名                           |
| 選 手 名 簿 | 選手11名以上25名以内(ベンチ入り選手は25名以内)<br>(特例承認は別)       |

### 開 会 式 ・ 閉 会 式

|     |                             |            |       |
|-----|-----------------------------|------------|-------|
| 開会式 | 都合により開会式は無し                 |            |       |
| 閉会式 | 2024年3月17日(日) 決勝戦終了後 会場 ●●● |            |       |
| 1   | 来賓・役員・審判員・代表・監督・コーチ整列       |            |       |
| 2   | 成績発表                        | 埼玉県東支部審判長  | 衆 等   |
| 3   | 表 彰                         | 埼玉県東支部長    | 本田 光昭 |
| 4   | 主催者挨拶                       | 埼玉県東支部長    | 本田 光昭 |
| 5   | 国旗・大会旗・降納                   | 無し         |       |
| 6   | 閉会宣言                        | 埼玉県東支部総務部長 | 島田 勝弘 |
| 7   | 選手退場                        |            |       |

以 上

## 日本少年野球連盟 埼玉県東支部主催大会規定

1. 1チームの登録選手は、小学生の部は11名以上20名以内、中学生の部は11名以上25名以内とする。
2. 出場選手はその大会の登録締め切り日現在連盟への登録済みの者に限る。
3. 審査証は当年度発行のものとする。
4. オーダー表記入選手25名以内およびチーム責任者、監督、コーチ、マネージャーのみベンチに入ることが出来る。但し、各種登録書(チーム責任者、監督、コーチ)および審査証(選手)を携帯していない場合は、いかなる場合でもベンチには入れないが、チーム責任者、監督、コーチは、試合開始までに間にあった場合は、審査の上その時点でベンチ入りできる。なお、チーム責任者は必ずベンチに入らなければならない。チーム責任者が不在の場合は試合が出来ない。
5. 組合せの若番号が1塁側のベンチ、後番号が3塁側のベンチに入る。ただし、チーム責任者、監督、コーチは登録書を携帯すること。
6. 監督(背番号60)、コーチ(背番号50)は選手と同じユニホームを着用すること。
7. 試合開始時間60分前に試合会場に到着し、直ちにオーダー表を5部、投球回数記録表副表3部及び大会初戦の時は、直前大会参加報告書を大会本部に提出のうえ所定の審査を受けなければならない。
8. オーダー表交換時に両キャプテンにより、先攻、後攻をジャンケンで決める。
9. 試合開始までにチームがグラウンドに現れないときには、球場責任者と責任審判員が協議して没収試合を宣言することができる。
10. 試合方式など  
(中学生の部)
  - ① 各試合は7回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から2時間(決勝戦は2時間21分)を超えた場合、新しいイニングには入らない。(ただし、後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する)また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則7.01(4)により勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。
  - ② 4回終了時(後攻チームの得点が先攻チームより多い場合は4回表終了時)10点差、5回以降7点差の場合、コールドゲームとする。
  - ③ 7回終了後、同点の場合は延長戦に入るが、延長8回(決勝戦は10回)あるいは試合開始から2時間(決勝戦2時間20分)を超えては(どちらか早い方)新しいイニングに入らず、タイブレーク方式を実施する。(競技に関する特別規約実施細則「タイブレーク」参照)
- (小学生の部)
  - ① 各試合は6回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から1時間40分(決勝戦は2時間)を超えた場合、新しいイニングには入らない。(後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する)また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則7.01(4)により勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。
  - ② 4回以降7点差の場合は(後攻チームが勝っている場合は4回表終了時)コールドゲームとする。
  - ③ 7回終了後、同点の場合は延長戦に入るが、延長8回(決勝戦は10回)あるいは試合開始から2時間(決勝戦は2時間20分)を超えては(どちらか早い方)新しいイニングに入らず、タイブレーク方式を実施する。(競技に関する特別規則「タイブレーク」実施細則)参照)
11. (1)小学生の部の投手の投球数は投球制限(別紙、小学生投手の投球制限統一ガイドライン参照)。  
(2)中学生の部の投手の投球数は投球制限(別紙、中学生投手の投球制限統一ガイドライン参照)。
12. (1) 監督またはコーチの指示、伝達は1試合で攻撃2回守備2回の計4回とする。延長又はタイブレークに入った場合は、それぞれ1回の指示、伝達を認める。(選手の怪我や交代などの指示、伝達は回数に入らない)  
(2) 守備側の投手に対する指示、伝達が3回目となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない。  
(3) 内野手が2人以上投手のところに行った時も1回に数える。  
(4) 指示、伝達は審判がタイムを宣言してから「30秒以内」とする。
13. 1イニングで同一の投手に指示、伝達が2回となれば、自動的に投手の交代となる。その他の守備位置につくことが出来るが、同一イニングでは投手として登板することはできない。ただし、新しいイニングに入れば、再び投手として登板することができる。
14. 審判員の判定に関する抗議は認めない。ただしルール適用についての確認は認める。
15. 監督またはコーチが投手に指示などをするときにはマウンドで行うこと(ベンチから駆け足で)
16. 2塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
17. ボール回しをする時は一回りとし、最終野手は、その定位置から返球する。また、打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。

18. 投手は走者をアウトにする意志がないのに、無用のけん制球を繰り返すとか、または送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。
19. 小学生の部は、攻撃側チームの監督、コーチに限りコーチズボックスでベースコーチを務めてもよい。この場合、必ず両耳付のヘルメットを着用すること。
20. 各チームは同色のヘルメットを1チーム7個以上、捕手の規定防具【マスク、捕手用ヘルメット、プロテクター、レガース、スロートガード、ファールカップ(一体型捕手用マスクの場合はヘルメット、ストローガードを除く)】2組を備えること。
21. ユニホーム、バット、ボール、スパイク、グラブ等は連盟指定業者のものに限る。
22. 捕手は必ずヘルメットならびに規定防具を試合、練習を問わず着用すること。
23. グラウンドの都合で大会トーナメント規定が別に制定された場合は、それに従うこと。
24. ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。
25. 光化学スモッグの発生の場合、試合および選手に対する措置は別に定め、運営委員の指示に従う。
26. 試合前のシートノックは原則として5分間行うが、当該球場のグラウンド状況や試合終了時間を勘案して、シートノックを行うか否かは球場責任者が決定するものとする。

#### 参考

#### 野球規則7.01(4)

7.02(a)によりサスペンデッドゲームにならない限り、コールドゲームは球審が打ち切りを命じた時に終了し、その勝敗はその際の両チームの総得点により決する

#### 【注】

我が国では、正式試合となった後のある回の途中で球審がコールドゲームを宣したとき、次に該当する場合は、サスペンデッドゲームとしないで、両チームが完了した最終回均等回の総督でその試合の勝敗を決することとする。

- (1) ビジティングチームがその回の表で得点しホームチームの得点と等しくなったが、表の攻撃が終わらないうち、また裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが得点しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。
- (2) ビジティングチームがその回の表でリードを奪う得点を記録したが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが同点またはリードを奪い返す得点を記録しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

### 《 タイブ레이크実施細則 》

#### (1) 特別規則

- イ) 中学生の部は延長8回あるいは試合開始から2時間を超えて(いずれか早い方)、決勝戦は10回あるいは2時間20分を超えて(いずれか早い方)、小学生の部は延長7回あるいは試合開始から1時間40分を超えて(いずれか早い方)、決勝戦は9回あるいは2時間00分を超えて(いずれか早い方)両チームの得点が等しい時、以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。
- ロ) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。
- ハ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして、二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。
- ニ) この場合の代打および代走は認められる。

#### (2) チームおよび個人記録

チームおよび個人記録は公式記録とするが、以下に掲げる事項に留意すること。

##### イ) 投手記録

規定により出塁した3走者は、投手の自責点とはしない。

完全試合は認めない。

無安打、無得点試合は認める。

##### ロ) 打撃成績

規定により出塁した3走者の出塁の記録はないものとする。ただし、盗塁、盗塁死、得点、残塁などは記録する。

規定により出塁した3走者を絡めた打点、併殺打などは全て記録する。

## 注意事項・確認事項

- 1) 球場に到着したチームは、速やかに大会本部にその旨を報告し、その際オーダー表「5部」を提出すること。オーダー表は「25名記名用」を使用すること。登録原簿との照合を受けた後、球審の立会のもとに攻守を決定する。二試合目以降のチームも登録原簿との照合を受けた後、球審の立会のもとに攻守を決定する。
- 2) グラウンドインから試合終了まで、チーム責任者、監督、コーチ、マネージャー、登録選手以外はベンチに入ることができない。
- 3) グラウンドインしたチームは球場責任者の指示のもと、速やかに試合前の練習を行うこと。グラウンドルールがある場合はそれに従うこと。
- 4) 試合開始前のシートノックは5分間とする。なお、守備位置につかずシートノックの補助をする登録選手はヘルメットを着用すること。
- 5) ボール回しは、一回り以内とし最終野手はその位置から投手に返球する。(試合時間が遅れている時にはボール回しをやめさせる)
- 6) 監督がタイムをとり投手に指示を与える場合、マウンド付近で行なうこと。(駆け足で)
- 7) 試合進行を意図的に遅らせる行為と疑われる選手交代には注意を与える。
- 8) 監督、コーチ(小学生の部)がコーチボックスに入る場合は、両耳ヘルメットを着用すること。
- 9) 試合は大会規定で定められた時間内で行うことを目標にし、スピーディーな試合進行に努めること。
- 10) 臨時代走
  - ① 試合中、攻撃側選手に不慮の事故が起き、治療などの処置に時間がかかるような場合相手チームを許可することができる。ただし、頭部への死球に対しては必ず臨時代走を出すこと。
  - ② 臨時代走者は、投手、捕手を除いた選手のうち、打撃を完了した直後の選手とする。
  - ③ 臨時代走者は、アウトになるか、得点するか、イニングが終了するまで継続する。
  - ④ 臨時代走者に代えて別の代走を送ることは出来る。この場合、負傷した選手に代走が起用された以後負傷選手は出場出来ない。
  - ⑤ (注)臨時代走者の記録上の取り扱いは、盗塁、得点、残塁などのすべて元の走者の記録として扱う。
- 11) 次打者は、必ずネクスト・バッターズサークルに入り、膝をついて待機すること。
- 12) 手袋、リストバンド、エルボーガード、フットガードの使用を認める。打者が走者になった場合、これらのタイムは認めない。ただし、打者走者が二塁ベースに到着した際に限り、これらの脱着のためのタイムは認める。(速やかにベースコーチがとりにいくこと)
- 13) グラウンド内のブルペンで投球練習を行うときは安全対策上、打撃監視員を必ず1名おくこと。
- 14) 交代選手の準備運動は、バッテリー又は野手1組とする。「球場の施設に従い攻守のときに審判員の指示に従うこと」
- 15) ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。メガホンはベンチ内持込は2個までとする。
- 16) 観客席応援で石等々をベットのボトルに入れての応援が厳禁である。(鳴物禁止)
- 17) グラウンド整備は、中学生の部両チーム5名に手伝わせる。(4回終了後のグラウンド整備を行う。ただし、日没・天候等々で心配懸念される場合は球場責任者・責任審判員の判断により行わなくても良い。)※グラウンド整備中は時計を止めないこととする。
- 18) 次試合の開始時間は(目安30分前が目標)、球場責任者と責任審判員で決定する。(整備は機敏に)
- 19) 攻撃、守備のタイムの制限があるので、審判員がタイムをとったベンチと記録員に報告させ記録席において回数をチェックさせる。
- 20) 試合終了後、記録員は試合記録表を両チーム責任者または監督から確認のサインを必ずもらうこと。
- 21) 問題が発生すれば大小に拘らず、本田支部長(090-5414-1521)に連絡すること。
- 22) 天候不順により会場変更が生じた場合は、斎藤企画運営部長(080-5021-3023)に連絡すること。
- 23) 喫煙マナーについて、歩行喫煙、ポイ捨て厳禁、その他球場の規則に従うこと。
- 24) 最近、各球場において「置き引き、貴重品盗難、車上狙い」が多発しているため、これらの被害に遭わないよう万全を期して管理を厳重にすること。

## 中学生投手の投球制限ガイドライン 2022年版

### レギュラーの部 (3年生以下の大会)

※本年9月から翌年3月までの大会は2年生以下の大会とする。

- レギュラーの試合での登板は以下とおり制限する。
  - ①1日最大80球とし、連続する2日間で120球とする。  
連続する2日間で80球を超えた場合は、3日目は投球を禁止する。  
また3連投(連続する3日間)する場合は1日の投球数を40球以内とし  
4連投(連続する4日間)は禁止する。
  - ②大会中は1日80球以内とし、翌日投球を休めば3日目80球の投球を可とする。
  - ③①～②を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の  
打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球にカウントしない。
  - ④連続する2日間で80球を越えた投手、並びに2連投した投手は翌日は捕手としても出場出来ない。
  - ⑤ボークは投球数にしない。
  - ⑥雨などノーゲームになった試合は投球にカウントする。
  - ⑦2年生以下が投手の場合も上記に準ずるが指導者は十分考慮する事。

### ジュニアの部 (2年生以下の大会)

※本年9月から翌年3月までの大会は1年生の大会とする。

- ジュニアの試合での登板は以下とおり制限する。(2年生以下)
  - ①1日最大70球とし、連続する2日間で105球とする。  
また3連投(連続する3日間)する場合は1日の投球数を35球以内とし  
4連投(連続する4日間)は禁止する。
  - ②大会中は1日70球とし、翌日投球を休めば3日目70球の投球を可とする。
  - ③①～②を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の  
打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球にカウントしない。
  - ④連続する2日間で70球を越えた投手、並びに2連投した投手は翌日は捕手としても出場出来ない。
  - ⑤ボークは投球数にしない。
  - ⑥雨などノーゲームになった試合は投球にカウントする。

### ※ 共通事項

- ダブルヘッダーの場合で2試合に登板した場合は連続2日間投球した事とする。  
また1試合のみ投球した場合は1日の投球とする。
- 練習中の投球数は、1日70球以内、週350以内とする。  
また、週1日以上、全力による投球練習をしない日を設ける事。

## 小学生投手の投球制限ガイドライン 2022年版

### レギュラーの部 (6年～4年生の大会)

- レギュラーの試合での登板は以下とおり制限する。(4年～6年)
  - ①1日最大70球とし、連続する2日間で105球とする。  
連続する2日間で70球を超えた場合は、3日目は投球を禁止する。  
また3連投(連続する3日間)する場合は1日の投球数を40球以内とし  
4連投(連続する4日間)は禁止する。
  - ②大会中は1日70球とし、翌日投球を休めば3日目70球の投球を可とする。
  - ③①～②を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の  
打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球にカウントしない。
  - ④ボークは投球数にしない。
  - ⑤雨などノーゲームになった試合は投球にカウントする。

### ジュニアの部 (5年～4年生の大会)

- ジュニアの試合での登板は以下とおり制限する。(5年生以下)
  - ①1日最大60球とし、連続する2日間で100球とする。  
連続する2日間で60球を超えた場合は、3日目は投球を禁止する。  
また3連投(連続する3日間)する場合は1日の投球数を30球以内とし  
4連投(連続する4日間)は禁止する。
  - ②大会中は1日60球とし、翌日投球を休めば3日目60球の投球を可とする。
  - ③①～②を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の  
打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球にカウントしない。
  - ④ボークは投球数にしない。
  - ⑤雨などノーゲームになった試合は投球にカウントする。

### ※ 小学部共通事項

- ダブルヘッダーの投球を禁止する。
- 下記の項目の制限は設けないが指導者は十文考慮する事。
  - ①レギュラーの部の大会に於いて5年生(4年生)が投球した場合でも  
レギュラーの部の投球制限とする。
  - ②小学部においては投手から捕手の制限は設けない。
  - ③練習における投球数の制限

## 投球制限ガイドラインの補足説明

- (1) ③について  
打者の途中で制限が来た場合とは、投球日における可能投球数の事である。  
中学レギュラーの部を例にすると、初日に於いては80球を超えた場合であり、また、初日68球投げた連投2日目であれば、2日目の可能投球数52球を超えた最後の打者に適用される。  
投手に3連投を予定していた場合には、初日、2日目に40球を超えると3日目は投げる事ができない。初日、2日目に於いて打者の途中であっても40球投げた時点で交代しなければ、3連投はできない。41球投げれば3連投できない。(打者の途中での投手の交代は制限していない)
- (2) ダブルヘッダーについて  
ダブルヘッダーの試合は、その日の第1試合、第2試合どちらかで投げれば翌日(前日)の試合の連続扱いとする。(片方の試合に登板しなくとも休みとはしない)  
両方の試合に投げた場合は、1日の最大投球数80球(中学レギュラー)で連続の試合で投げたこととなり、翌日投げる場合、また前日投げていた場合は、3連投の扱いとなり、1試合40球を超えていると投げられない。

令和3年7月3日

### 投手投球制限の運用催促

#### 1.投球数の定義

試合中に投手が捕手に向かって投げた球とする。

以下の場合、球数としてカウントしない。

- ① 牽制球
- ② ボーク

※ただし走者なしの場合のボークで投球動作中にボールが手から飛び出し、ファウルラインを超えて「ボール」と宣告された投球数はカウントする。

- ③ 当該打者へ申告敬遠を行ってからの投球数。

#### 2.投球数の管理

- ① 球場責任者は、スコアラー1名、投球数管理責任者と投球数管理者の2名を配置する。
- ② 投球数管理責任者は別紙「投球数集計表」により記録する。
- ③ もう一人管理者は、カウンター、得点版等の器具を用いて投球数を計測する。
- ④ イニング終了時に投球数管理責任者、管理者とスコアラーにより投球数を一致させる。
- ⑤ 投球数が一致しない場合は、3人のうち多い方を投球数と決定、3者が一致しない場合は投球数管理責任者の投球数を記録する。
- ⑥ 確定した投球数を次のイニング開始前にアナウンサーが球場にアナウンスする。
- ⑦ 投球数はイニング毎の投球数及びその投手の総数の投球数をアナウンスする。  
(例「この回の得点は○点、投球数は○球です。なお、△□投手の総投球数は○球です。」)
- ⑧ 各チームはアナウンスされた投球数と違うと判断した場合は、監督がタイムをかけて球場責任者及び投球数管理責任者と協議して投球数を決定する。

#### 3.運用・管理方法

- ① 当日の試合終了後、勝ち上がりチームは、「投手投球記録表」(副3枚)を作成し球場責任者に提出すること。なお、当方は「投手投球回数記録表」(副)を代用して差支えない。
- ② 球場責任者は提出された「投球数記録表」(副)を上記2の投球数管理者のもとに間違いのないかを確認し、「投手投球数記録表」(正)を作成、署名交付する。
- ③ 球場責任者又は勝ち上がりチームが責任を持って翌日以降の大会の球場責任者に対して、「投手投球記録表」(正)及び(副3枚)を引き継ぎ、球場責任者は「投球数集計表(原本)」を保管する。
- ④ 翌日以降の球場責任者も①～③の手順に沿って投球数管理を行い最終的に大会本部に引き継ぐ。



「中学生投手の投球制限統一ガイドライン」の適用例

|     | 第一日目     | 第二日目                  | 第三日目     | 第四日目 | 第五日目    | 第六日目 | 備 考  |
|-----|----------|-----------------------|----------|------|---------|------|--|
| 投手A | 80       | 0                     | 80       | 0    | 80      | 0    | 80球投げた翌日には登板していないため、翌々日には80球投球できる。<br>(打者終了時に80球を超えても、1試合分の最大カウント数は80球)  |
| 投手B | 80       | 40                    | 休        | 80   | 0       | 80   | 一日目80球、二日目40球で連続する2日間で120球となったため、三日目は投手・捕手として出場できない。(※また、2日間で80球を超えているので三日目は捕手として出場できない規定もある。投手D参照)                                      |
| 投手C | 40       | 40                    | 35       | 休    | 80      | 40   | 3日間連続40球以内であれば登板可能。ただし球数に関わらず3日間連続登板した場合は、四日目は投手・捕手として出場できない。<br>四日目が休みだったので、五日目80球、六日目40球の投球は可能。  |
| 投手D | 40       | 45                    | 休        | 30   | 60      | 休    | 一、二日目で80球を超えたため、三日目は投手・捕手として出場できない。<br>四、五日目で連続2日間で80球を超えているため、六日目の3日間連続登板および捕手として出場できない。  |
| 投手E | 40       | 40<br>40              | 休        | 80   | 0<br>40 | 休    | 一、二日目で40球以内の3連投をしているため、三日目は投手・捕手として出場できない。四日目は80球のため五日目は投球した時点から1試合目に登板していても連続する2日間で80球を超えるため、六日目は投手・捕手として出場できない。                        |
| 投手F | 30<br>30 | 休<br>※<br>捕<br>手<br>可 | 40<br>40 | 40   | 休       | 80   | ダブルヘッダーで80球以内であっても、どちらかの試合で40球を超えた場合は、3連投できないが、※連続した2日間で80球以内なので、翌日は捕手として出場できる。<br><br>第3日目からの3連投は40球以内なので可能であるが、3連投した投手は投手・捕手として出場できない。 |

「小学生投手の投球制限統一ガイドライン」の適用例

|     | 第一日目    | 第二日目    | 第三日目 | 第四日目    | 第五日目    | 第六日目 | 備 考   |
|-----|---------|---------|------|---------|---------|------|---|
| 投手A | 70      | 0       | 70   | 0       | 70      | 0    | 70球投げた翌日には登板していないため、翌々日には70球投球できる。<br>(打者終了時に70球を超えても、1試合分の最大カウント数は70球)                                     |
| 投手B | 70      | 35      | 休    | 70      | 0       | 70   | 一日目70球、二日目35球で連続する2日間で105球となったため、三日目は登板できない。  |
| 投手C | 35      | 30      | 30   | 休       | 70      | 35   | 35球以内で連続する2日間で70球以内であれば3日間連続登板可能。<br>ただし球数に関わらず3日間連続登板した場合は、四日目は登板できない。<br>四日目が休みだったので、五日目70球、六日目35球の投球は可能。 |
| 投手D | 40      | 35      | 休    | 20      | 45      | 休    | 一、二日目で70球を超えたため、三日目は登板できない。<br>四、五日目は70球以内だが、五日目で40球を超えているため、六日目の3日間連続登板はできない。                              |
| 投手E | 70<br>休 | 35      | 休    | 休<br>35 | 70      | 休    | 小学生の部はダブルヘッダーの場合、どちらかの試合しか登板できない。<br>登板した翌日は105球まで投球可能。翌々日は登板できない。  |
| 投手F | 70      | 35<br>休 | 休    | 35      | 20<br>休 | 35   | 一日目70球、二日目1試合目40球まで、二日目2試合目と三日目は登板できない。<br>四日目と五日目1試合目で70球以内であれば、五日目が2試合目は登板できないが、六日目は40球までは投球できる。          |

【小学生・中学生 共通事項】

※打席の途中で制限数がきた場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。

制限数を超過した球数は投球数にカウントしない。

※数字は投球数。「休」は投手・捕手として出場できない日。(小学生は捕手の出場は可)「0」は登板しなかった試合。

※指導者は、公式戦だけでなく、練習試合も対象となっていることを認識する。





# 令和6年 第15回ベースマン杯大会・中学部 レギュラー 東支部準決勝、東西準決勝決勝戦 組み合わせ

開催日 2024年2月25日(日)・3月3日(日)・10日(日)・17日(日)・予備24日(日)

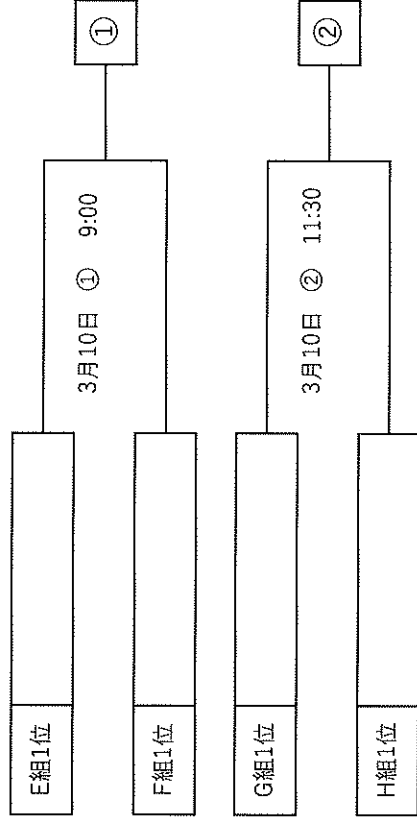
- ◆参加費用 15,000円 ◆使用球は、ダイトベースボール社または一光スポーツ社(5,000円前後)
- ◆審判員は、自チームから配置

リーグ戦(2/25) 第一試合⇒3試合目チーム(③⑥⑨⑫)、第二試合⇒1試合目チーム(①④⑦⑩)、第三試合⇒2試合目チーム(②⑤⑧⑪)  
 リーグ戦(3/3) 第一試合⇒3試合目チーム(C3,D3,A3,B3)、第二試合⇒1試合目チーム(A1,B1,C1,D1)、第三試合⇒2試合目チーム(B2,C2,D2,A2)  
 準決勝トーナメント(3/10) 第一試合⇒2試合目チーム(G1,H1)、第二試合⇒1試合目チーム(E1,F1)

## 埼玉県東支部 準決勝戦

◆東支部審判員予定

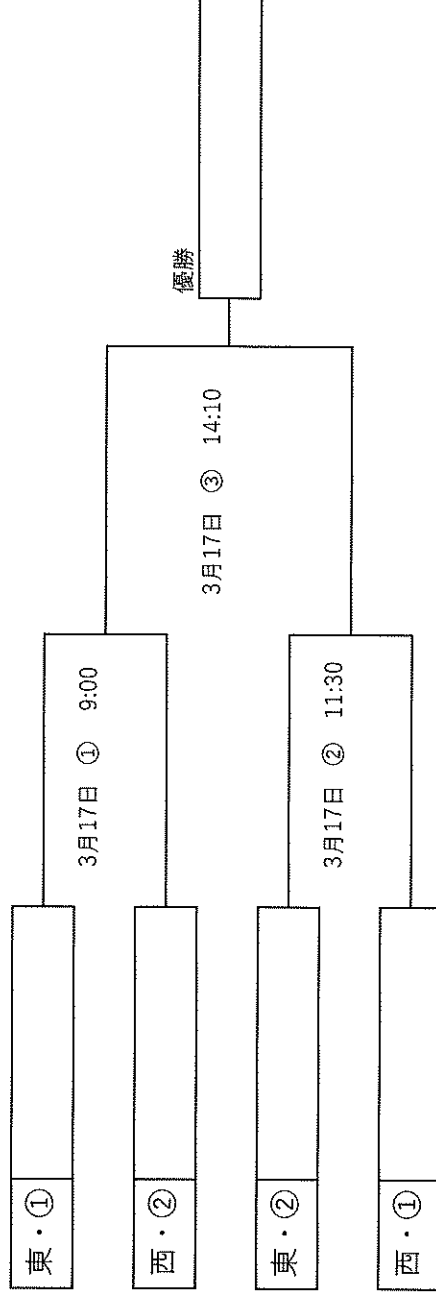
◆試合会場及び球場



## 埼玉県東西支部合同 準決勝、決勝戦

◆東西支部審判員予定

◆試合会場及び球場



# 令和6年 第15回ベースマンズ杯大会・中学部 埼玉県東西支部 組み合わせせ

開催日

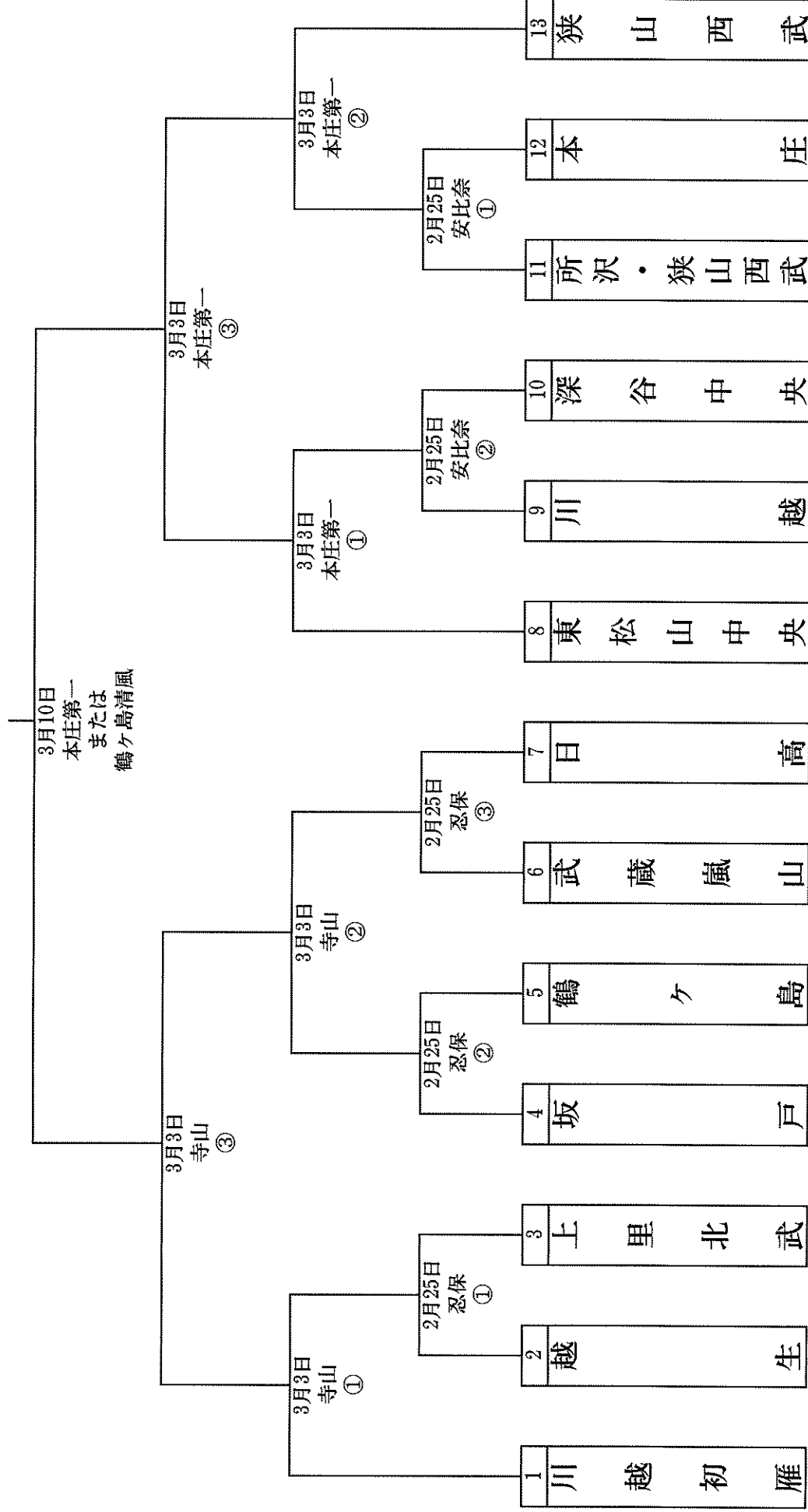
2024年3月3日(日)・10日(日)・17日(日)・24日(日)・31日(日)・予備4月7日(日)

◆参加費用 15,000円

◆審判員は、自チームから配置

◆試合会場及び球場

|          |      |           |
|----------|------|-----------|
| 東西準決・決勝戦 | 3/17 | 東① 対 西準優勝 |
|          |      | 東② 対 西優勝  |



# 令和6年 第15回ベースマン杯大会・中学部 ジュニア 組み合わせせ

開催日 2024年3月3日(日)・10日(日)・17日(日)・24日(日)・31日(日)・予Ⓢ◆参加費用 15,000円

◆審判員は、自チームから配置

◆試合会場及び球場  
埼玉栄中学グラウンド

埼玉県さいたま市西区西遊馬3131  
埼玉県さいたま市桜区大字宿(荒川総合運動公園)  
埼玉県川越市安比奈新田140

